

川湯温泉街まちづくりマスタープラン住民説明会 質疑応答

※質疑応答の内容を要約したものです。実際の発言と表現に差異が生じることがありますがご了承ください。

○10月18日（水）14時00分～ 川湯ふるさと館

【質問】

生活圏と観光地域の区別をしてほしい
水着で遊んでいる風景が、生活の一部になることには違和感がある
この事業は、観光客目線が必要（主役はお客さん、そのニーズが必要）
今までいろいろな計画を立てたが、そのとおりにならない。今回も不安がある。
人口が減っていくなか、建物なども大きすぎるのでは、もっとシンプルにすべき
まちづくり会社の創生とっているが、ツーリズムでしかがの二の舞にならないか不安
温泉について、個人的な思いがあるので、皆さんと議論の場がほしい
オブザーバーにする大学の先生もいる
下水が整っておらず、湯川に垂れ流しになっている。しっかりと改善してほしい

【回答】

具体的な施設に向けては、会議体を組成して皆様と協議できる場を設けて、意見をいただきたいと考えています。施設については、極力維持費の掛からない施設になるよう進めて行きたいと考えています。下水等建築基準法に従い整備することになります。

【質問】

大変期待している
個人でできないことができるようになっていく。
アウトドアのお客さんも多いので、その対応ができるのではと期待している
スイスのツエルマットにもっと近づいているのでは。
ラグーンについては、議論の必要がある

【回答】

ラグーンについても、議論できる場を設けて進めて行きたいと考えています。

【質問】

森の中の温泉街というが、僕には森に隠れたレジャーランドに感じる。そこを
考えてほしい

【回答】

マスタープランはイメージ図になります。今後自然に囲まれた湯の川を感じられる川湯温泉のシンボルとなるような施設として整備する予定です。

【質 問】

ラグーンに関して、何度か集まっているが、反対意見などを反映したあらたなデザインがでてくるのか、または、ちょこちょこっと修正した案がだされるのか。修正されないのならば、集まる意味もないのでは。

【回 答】

今後、皆様からの意見を集約して、地域の意見として設計会社に伝えデザイン案を作成してもらおうスケジュールとなっています。

【質 問】

例えばラグーンの計画変更は、星野リゾートが撤退を考えるほどの温度感のものなのか

【回 答】

川湯広場を、川湯温泉街の新たなシンボリックな場所となるよう整備する計画です。その計画が白紙になると撤退も考えられる可能性があります。

○10月20日（金）14時00分～ 川湯ふるさと館

【質問】

発展するというワード。10年20年入込数増など、発展することが予想される。30年後、その先のイメージがあれば伺いたい。

【回答】

観光客数、宿泊者数等川湯温泉エリアにふさわしい規模で、持続可能な観光地となり、観光業を営む方や地域住民が幸せに暮らしていることが望ましいと考えている。

【質問】

自然の中にお風呂をつくる。ラグーンは日本にない施設。自由に入れるとのことだが地元の人には心配している。夜中に勝手に入っていたり。海外の人と文化が違うので対応が難しいのではないか。

【回答】

外国人観光客など文化の違いがあり当然心配だが、施設管理の中で、外国人対応は当然していかなければならないので人材確保など適正に管理できる体制を整える必要があります。

【質問】

自然を残したデザインとなっている。経年劣化していくので管理費などが増額していくのが心配になった。

【回答】

今後、具体的な設計になっていくときに、特殊な川湯温泉の泉質で電化製品が劣化しやすいので、その環境に耐えうる資材、できるだけ管理費が掛かりにくい方法など検討して設計していかなければならないと考えています。

【質問】

生産者なので川湯横丁が気になる。店舗数、コンセプトをお聞かせ願いたい。

【回答】

4～7坪程度の屋台を連なるイメージ。川湯は硫化水素の関係で電気製品が劣化するし初期投資が難しいことから、比較的簡単に开店できるような店舗をイメージしている。でもこれで営業できるのかという分析はまだできていません。屋台街がベストかというものも検討がこれからです。引き続き調査を続けていきます。

【質 問】

開店当初は既存の店舗の客が川湯横丁に取られて減ってしまうことも懸念される。そこをフォローできる体制も大切と思います。

【回 答】

現状では、川湯温泉で昼食を食べる場所がない、夕食も食べられる店舗数に限りがありコンビニ弁当で済ましている状況も見られています。川湯横丁で軽く食べて、飲んで、既存の店舗に行って本格的に食事をするなど、各店舗をめぐる仕組みができればと考えています。

○10月21日（土）14時00分～ 役場庁舎1階ロビー

【質 問】

弟子屈町、星野リゾート、環境省の立ち位置、お金の出どころを教えてください。

【回 答】

環境省の満喫プロジェクト事業で、川湯温泉の旧華の湯、旧川湯プリンス、旧御園ホテルについては、不動産を町が取得して環境省で取壊しを行いました。更地にして、環境省が公募をして応募してきたのが星野リゾートです。星野リゾートの進出をきっかけに川湯温泉を底上げするためマスタープランを策定しました。

旧川湯グランドホテル解体については、環境省の補助金を活用して、1/2 補助金、1/2 町費で取壊しを行っています。残りの財源は過疎債を活用しています。川湯広場についても過疎債を活用して整備する予定です。他の事業でも、国や北海道と協議し活用できる補助金を、まちづくり会社は町が出資し、民間が経営していくことを想定しています。お金が回って儲かる仕組みの検討を進めていきたいと考えています。

【質 問】

適切なスケールでの川湯温泉再生とあるが、部屋数等どうやって決定したのか。

【回 答】

現状の宿泊者数、ピーク時と既存の部屋数と比較して決定しました。将来的には450室を目指しています。

【質 問】

マスタープランができたが、だれが作ったか、完成させるにあたって誰かの意見を吸い上げたのか。

【回 答】

町でコンサル会社に委託し町が策定しました。協議会で意見をもらって計画に反映しました。

【質 問】

ラグーンがまだ流動的な部分があるが、財源を見つけて建設するとなっているが、人口減少が進んで民間が撤退したらどうするか。また廃屋になっていく。どうするのか。国のお金を使うと制約があり改修が難しいなど聞いたことがある。建てたはいいが改修もできないことがあるのではなか。

【回 答】

川湯広場の建設に係る財源は、現在旧川湯グランドホテル取壊しの財源と同じで、過疎債を活用する予定です。取壊しのあとすぐに施設建設をしなければならぬので時間の制約はあります。

【質問】

観光振興計画にある地域戦略会議はいつ始まるのか。

【回答】

観光協会の人員不足などにより体制が整っていないことと、戦略会議のメンバーの選定の調整に手間取っており時間を要しています。

【質問】

地域戦略会議が整っていない状態で、このプランができたのは何か理由があったのか。

【回答】

本マスタープランの上位計画が観光振興計画であり、観光振興計画の中でも川湯温泉の再生が課題となっており問題はないと考えています。

【意見】

川湯温泉がメインの観光地、そのほかにワイナリー、コタン、文化センターの維持費があるのに、川湯にこんなに投資をするのはギャンブルだと思う。

【質問】

マスタープランでは20年後の観光客が出ているが、湯の川を改修したことで現状も変化していると思う。フェーズごとの観光客の予測はされているか。就労人口がマスタープラン策定して20年後、担い手がいない現状と同じ状態になるかもしれない。心配である。

まちづくり会社を立ち上げると聞いているが、閑散期の対応など大丈夫か心配になる。

観光振興計画がある。持続可能な観光振興と認識している。地元川湯の再生を新しくやっというところがあると思いますが、観光振興計画と連携してやっというのか。

【回答】

川湯温泉のエリアにふさわしい規模の集客として年20万人に宿泊者数、適正室数を最大450室としており、過去の団体客等薄利多売の営業から、質の高い温泉街へシフトし、しっかりと定期的に設備投資へ回せる収益を確保できる経営に変わっていかなければならないと考えています。温泉街として持続可能な状態を維持し、地元の子供たちも進学のため町外に出て行っても就職で戻ってこられる地域にしていきたい。まちづくり会社の組成についてはこれから具

体的に検討していくこととなりますが、継続できる仕組みを構築していかなければならないと考えています。当然観光振興計画はマスタープランの上位計画なので、観光振興計画とはリンクしているものです。

【質 問】

ターゲットはどこに置いているのか。エビデンスが示されていない。ターゲットに合わせた事業規模、人材確保が必要と考えるが、人的リソースに何か町の対策はあるのか。川湯以外の事業者にはあまりうまみがない。

【回 答】

質の高い温泉街へシフトし、しっかりと定期的に設備投資へ回せる収益を確保できる経営に変わっていかなければならないと考えているので、今までよりも高価格な客層をターゲットにしながら、インバウンドも受け入れていくこととなります。人材確保については、移住政策と合わせながら事業者と協力し進めて行かなければならないと考えています。

【質 問】

世界基準とあるが、今のプランは世界基準とは思えない。まちづくり会社も相当作りこまないと回らない懸念がある。

【回 答】

環境省とも連携しながら少しずつ世界基準にふさわしい地域になれるよう進めて行きたい。まちづくり会社組成はこれから検討していくことになるので全国の先進事例等参考にしながら進めて行きたいと考えています。

【質 問】

川湯で雇用が増えると思われるが、現状では不便なことが多い。病院が足りない、スーパーが足りない、警察が派出所しかないなどそれを行政としてどうしていくのか。

【回 答】

これから、雇用が増え住民も増加し、そうすると民間事業者が新たに商売を始めたり、コンビニができたり進んでいくと思います。

【質 問】

過疎債は縛りがいいのか。人材の確保の担当はどこ部署か。協議会はどのような方が入っているのか。

【回 答】

過疎債は時間的縛りがあります。壊した後雇用を生む公共施設を建てなければなりません。人材確保については、移住に関することはまちづくり政策課で、

企業雇用に関することは観光商工課なので連携しながら進めていきます。協議会は、川湯地域運営協会、川湯温泉旅館組合、川湯料飲店組合、自治会連合会、商工会、観光協会、自然公園財団、星野リゾート、環境省で構成されています。

【質 問】

ラグーンの規模や人工的なものになるのか。排水はどうするのか。そのまま屈斜路湖へ垂れ流すのか。キャンプ場はホテル誘致のリザーブ用地とはどういうことか。

【回 答】

ラグーンは、現在取り壊している川湯グランドホテルの跡地に建設することになり具体的規模はこれからになる。排水は法律に基づいて処理することになります。リザーブ用地は、今後新たなホテル事業者の進出があった場合に対応できるように用地として確保するという事です。

【質 問】

ホテル誘致はどこまでするのか決まっているのか。環境アセスはやってほしい。オープン会議はどのような枠組みでおこなうのか。

【回 答】

ホテル事業者の誘致は特に決まっていない。環境アセスは環境省と協議し法律に基づき必要に応じて実施します。オープン会議はこれから組成しますが、環境省や地元各事業者、デザインや設計の専門家などを想定しています。

【質 問】

温泉川、象徴となるのは足湯のあたりの川（湯量は少ないが）だと思うが、そちらを強調するプランはないのか。

【回 答】

足湯を現在のところに残すのか、その機能を川湯広場に移すのかこれから決めていくことになります。

【質 問】

川湯の住民はラグーンを反対していた。川湯温泉らしくない。今後どういう決定をしていくのか。川湯らしさ、どうコンサルが調整してどう決まるのか。変更されたイメージ図は公表するのか。

【回 答】

これからワーキンググループを組成して、地元住民、地元事業者等で意見を吸い上げて進めていくことになります。建設にあたって完成イメージは公表する予定です。

【質 問】

川湯広場について、マスタープランのターゲット、背景、構想等示したうえでデザインプランを複数示していただかないと好みでの選択にしかない。

【回 答】

具体的設計はこれからなので、意見をもらったうえでプランに反映させていきたい。

【質 問】

川湯らしさを表現して意見を伺うようにしてほしい。

【回 答】

ワーキンググループなどで川湯らしさなども意見を出してもらいながら設計に反映していきたいと思います。

○10月22日（日）14時00分～ 川湯ふるさと館

【意見】

- ・説明会で集まった意見を、参加したみんなが見られるようにしておかないと、出された意見がどうなったか明らかにして透明性を図っておかないと理解が得られないと思う。
- ・DMOの戦略会議が開かれない状態で、川湯の再開発について決められないのではないか。
- ・議論するうえでは、目標宿泊者数、宿泊施設規模400室～450室とした根拠を明確にしておくべき。

【質問】

予算額は決まっているのか。星野リゾートはいくらだすのか。二次交通について何も無い。空港が3つあるがどう接続するのか。実証実験を行っていないと分析できない。ターゲットングについてはどうなっているのか。

【回答】

予算はまだ決まっていません。インフラ整備は町がやりますので星野リゾートは出しません。公共交通は、以前摩周湖への道路を封鎖し公共交通を利用する実証実験を10年以上前に行いましたが、今行えば先進的だったと思いますが早すぎました。今後星野リゾートが進出して状況を見ながら公共交通の再編を行っていきたいと思います。過去の団体客等薄利多売の営業から、質の高い温泉街へシフトし、きちんと定期的に設備投資へ回せる収益を確保できる経営に変わっていかねばならないと考えているので、今まで以上の単価の高い方やインバウンドをターゲットに考えています。

【質問】

マスタープランの説明の中で、町全体、住民とありますが、それは川湯なのか弟子屈全体を指すのか。住民の要望から日帰り入浴施設とあったが、全体から意見を聞いたのはどのような手法で聞いたのか。住民が利用する日帰り温泉は、町民の利用だけでは営業できないのではないか。

【回答】

川湯温泉のマスタープランなので、対象となる地域に住んでいる住民や事業を営んでいる方を優先的に意見を伺っていますが、協議会には自治会連合会長も構成員なので町全体という立場からも意見を聞ける体制にはなっています。日帰り入浴施設は以前から地域住民や旅行者から求められていました。日帰り温泉施設の設計や運営はこれからなので、なるべく管理費用が少なくなるよう協議していきたいと思います。

【質 問】

ラグーンについて、硫黄山があるのでハザードマップがあるが、川のハザードマップも必要なのではないか。排水も入っている温泉川に入るのは衛生的に問題ないのか。最後にパネルの字が小さくて見にくいです。

【回 答】

温泉川については今まで増水したことはないと思いますが、今後必要があれば対応いたします。今ある温泉川については、水質調査を実施しますが、実際に入れる川を整備する場合は、泉源からきれいな温泉を引いて整備することになるので衛生的には問題ありません。パネルの字については申し訳ありません。

【質 問】

ターゲットは、自分たちが決めるもの。ラグーンはファミリー層が対象になると思う。でもファミリー層も利用しづらいと思う。そうすると中途半端な施設になるのではないかと思う。

【回 答】

設計はこれからになるので、皆さんの意見を取り入れながら建設に向けて進めて行きたい。

【質 問】

外国人が多い観光地は日本人がリピートしない傾向があると思う。その辺りのバランスを見て欲しい。

【回 答】

インバウンドも日本人もバランスよく誘客していきたいと思います。

【質 問】

川湯広場の湯量が足りるのか不安がある。

【回 答】

現在、北海道立総合研究機構へ泉源と湯量の調査を実施しており結果はこれからですが、全盛期より多くなることはないと思われるので大丈夫だと思います。

【質 問】

冬は川湯広場に入れるのか。他にアクティビティーはあるか。

【回 答】

川湯広場については、冬は場所を区切って一部で入れるような感じになると思います。森のアクティビティーゾーンで、アスレチックや冬はスケートリン

クなど想定しています。

【質 問】

アウトドアセンターをビジターセンターに持っていくと機能的にキャンプ場と離れてしまうことで利用しづらくなったりするかもしれない。そのあたりはどう考えているのか。

【回 答】

川湯園地は環境省で再整備に向けて事業を進めております。環境省と連携しながら利用しやすいように進めて行きます。

10月24日（火）14時00分～ 川湯ふるさと館

【質 問】

今回の意見は、今後どのように活用されますか。

【回 答】

協議会やワーキンググループで共有し意見として反映していきます。今回いただいた意見、アンケート、協議内容は町HPなどで公開していきたいと考えております。

【質 問】

駐車場は街中にはないですが、どのあたりに駐車場を予定していますか。現在街中にも駐車場があるが、そういう利用をしている方も同様にするのか。近郊から来るお客さんについては近くに停めさせてほしい。

【回 答】

駐車場は、警察署裏や川湯園地などを想定し、川湯温泉を観光客には歩いて巡っていただくコンセプトになっていますが、各事業者には不便のないように進めていきたいと考えております。

【質 問】

駐車場については、弱者に対して優しい地域として考えて欲しい。ラグーンについて、計画で規模を縮小したり形を変えたりと言っていたが、ラグーンは決まりなのか。周りでは良いと言っている方は聞いたことがない。みんなが良いと思えるものを作ってほしい。ラグーン建設をいつまでにだれが決定するのか。

【回 答】

当然障がいのある方の駐車場は利用しやすいよう設置します。ラグーンについては、設計がこれからなので、皆さんに意見を伺いながら、住んでいる人もお勧めできる施設になるように進めていきたいと思えます。基本設計については、実施設計に向けた予算の関係があることから今年度末まで決定します。

【質 問】

維持管理費は積算しているのですか？設計と維持管理費を同時に積算するのか。

【回 答】

設計がこれからなので、設計と同時に維持費も計算し、なるべく維持費がかからない設計になるように進めて行きます。

【質 問】

川湯広場は短い時間で決定するのか？間に合うのか？デザインを含めてもう一度皆様に伺うのか。

【回 答】

川湯広場は今年度中には決定しなければならない。デザインが決まりましたら皆さんに町広報誌や町HP等を通じて公表します。

【質 問】

ラグーン決定まで時間がないので不安がある。タイミング的には間に合っほしいが速度感に不安を覚える。完成して残念な結果にならないようにしてほしい。会議は何回行って時間的にどれくらいかかったのか。町民の意見はどれくらい反映されているのか。

【回 答】

川湯広場は今年度中に決定するので、ワーキンググループやデザイン会議など開催し意見を吸い上げて設計していきます。協議会はこれまで5回開催しました。会議は2時間ほどの会議で、川湯地域運営協会、川湯温泉旅館組合、川湯料飲店組合、自治会連合会、商工会、観光協会、星野リゾート、環境省の代表となる方に参加いただいて意見を集約しています。

【質 問】

良いものがあったとしてもすべてできるわけではない。住民に愛されているかどうかというのが大事だと思います。川湯温泉の発展という説明がありましたが発展とは何か。

【回 答】

川湯広場について、皆様が観光客にお勧めできる施設となるように皆様の意見を反映させながら進めて行きたいと思えます。川湯温泉の発展とは、住んでいる皆様や事業を営んでいる皆様が、持続的に稼いで幸せに生活をしていけることと考えています。

【質 問】

星野リゾート進出するまでには、一部オープンするが、残りの17年後もキャンプ場、飲食店を誘致し続けるのか。阿寒湖には勝てない。変わらず続けるのか。

【回 答】

20年かけて川湯広場、川湯テラス、川湯横丁と整備を進めて行きますが、なるべく早く整備を進めて行きたいと考えております。進捗に合わせて時代の流れに合うよう皆様と協議しながら進めたいと考えております。

【質 問】

ユニバーサルデザインの配慮をしてほしい。

【回 答】

承知しました。誰もが使いやすい施設整備を進めて行きます。

【質 問】

組織の立ち上げのスケジュール感はどうなるのか。各施設のコスト等早い段階で示さないとどういう組織にするか決められないのではないのか。町ではゼロカーボン宣言しているが、このプランでは見えてこない。どのようになっているのか。

【回 答】

川湯広場については今年度中にある程度決定するのでそれに合わせて維持費等も積算します。それと並行して組成していきたいと考えています。ゼロカーボンでは、現在湯沼アトサヌプリ地区で地熱発電事業が進んでおり、実用化にはまだ5年ほどかかる予定ですが、そこで発電された電力を川湯地域で使うとか、温泉熱を利用した暖房等取り組みできるところから進めて行きたいと考えています。